

協働によるまちづくりに関する 市民意識アンケート

報 告 書

市民生活部市民協働課

調査概要

目的	市民の「協働」に対する考え方やまちづくりへの参加状況の把握のため
調査対象	弘前市民（2,000人）※無作為抽出
調査方法	商工労政課が実施した「弘前市中心市街地に関するアンケート」に本アンケートを同封し、返信用封筒で回答
調査期間	令和元年10月4日（金）アンケート送付 回答締切：～10月18日（金）
回答者数	773人（回答率38.65%）

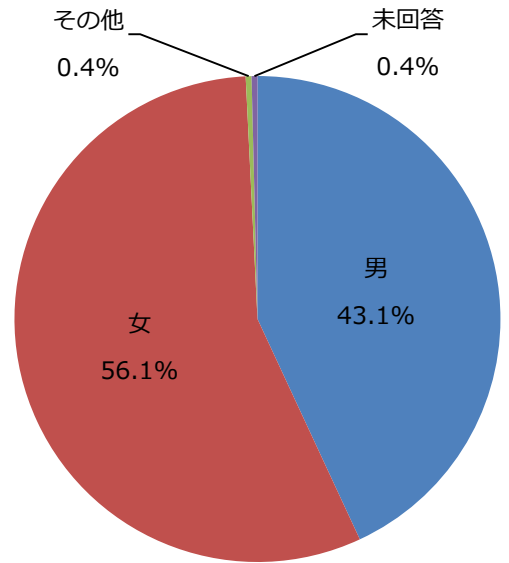
目次

◆回答者について	02
◆条例の認知度	04
◆市政運営や市の事業への参加について	05
◆まちづくり（市民活動）への参加について	06
◆まちづくりに対する考えについて	11
◆弘前市の協働に関する取り組みについて	13
◆自由意見	14

回答者について

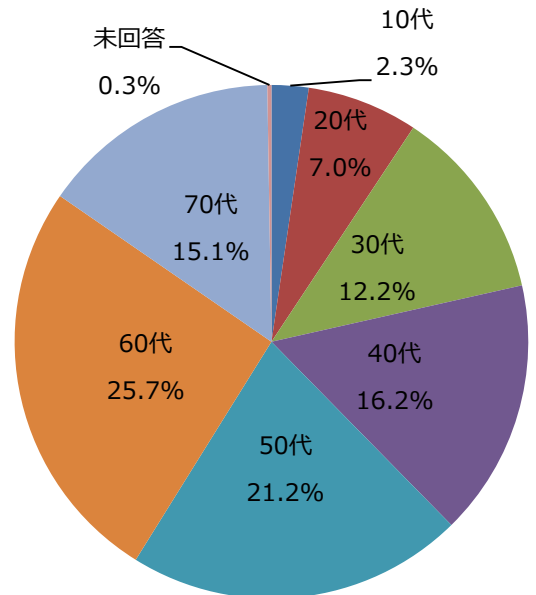
性別

	人数	構成比(%)
男	333	43.1
女	434	56.1
その他	3	0.4
未回答	3	0.4
合計	773	100



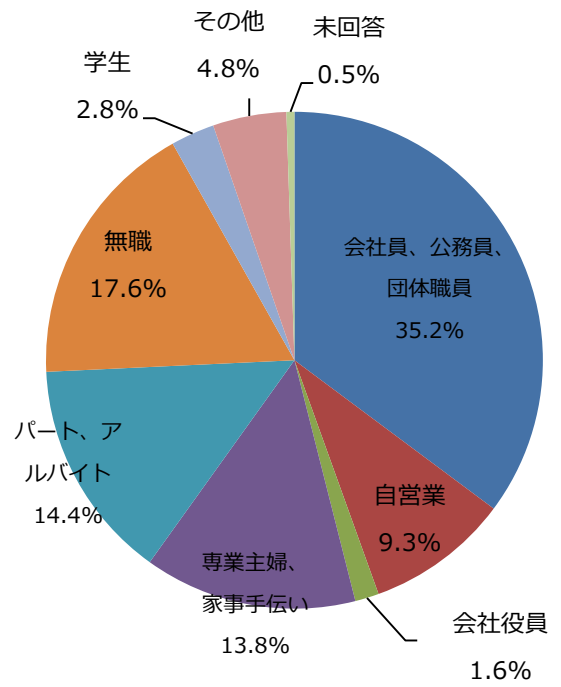
年代

	人数	構成比(%)
10代	18	2.3
20代	54	7.0
30代	94	12.2
40代	125	16.2
50代	164	21.2
60代	199	25.7
70代	117	15.1
未回答	2	0.3
合計	773	100



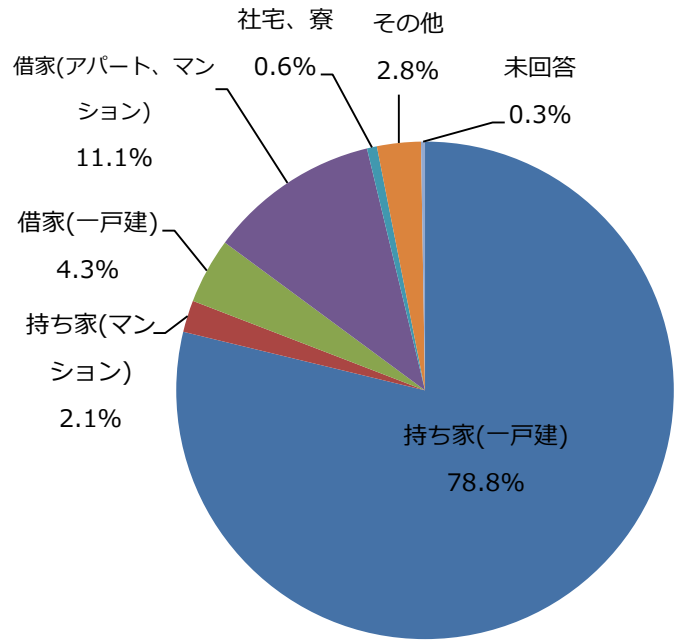
職種

	人数	構成比 (%)
会社員、公務員、団体職員	272	35.2
自営業	72	9.3
会社役員	12	1.6
専業主婦、家事手伝い	107	13.8
パート、アルバイト	111	14.4
無職	136	17.6
学生	22	2.8
その他	37	4.8
未回答	4	0.5
合計	773	100



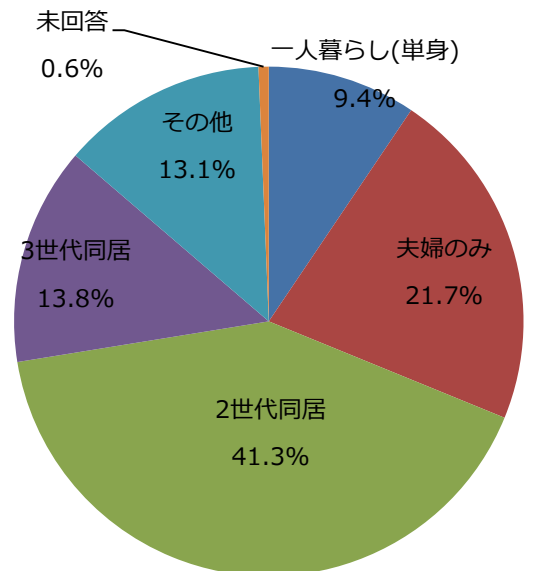
お住まい

	人数	構成比 (%)
持ち家(一戸建)	609	78.8
持ち家(マンション)	16	2.1
借家(一戸建)	33	4.3
借家(アパート、マンション)	86	11.1
社宅、寮	5	0.6
その他	22	2.8
未回答	2	0.3
合計	773	100



家族構成

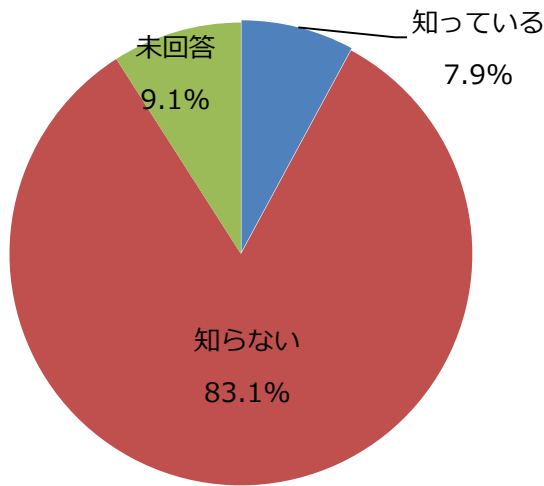
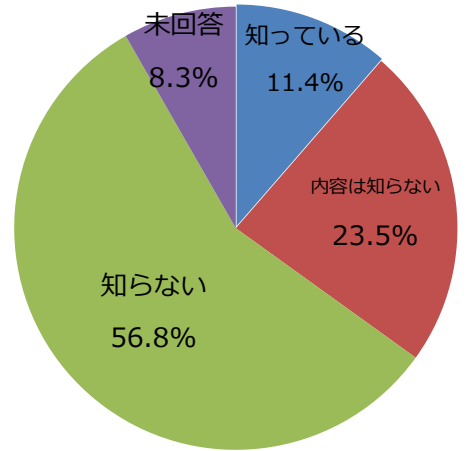
	人数	構成比 (%)
一人暮らし(単身)	73	9.4
夫婦のみ	168	21.7
2世代同居	319	41.3
3世代同居	107	13.8
その他	101	13.1
未回答	5	0.6
合計	773	100



条例の認知度

問1 「協働」という言葉の意味を知っていましたか。

No.	回答	人数	構成比(%)
1	知っている	88	11.4
2	言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない	182	23.5
3	知らない	439	56.8
4	未回答	64	8.3
合計		773	100

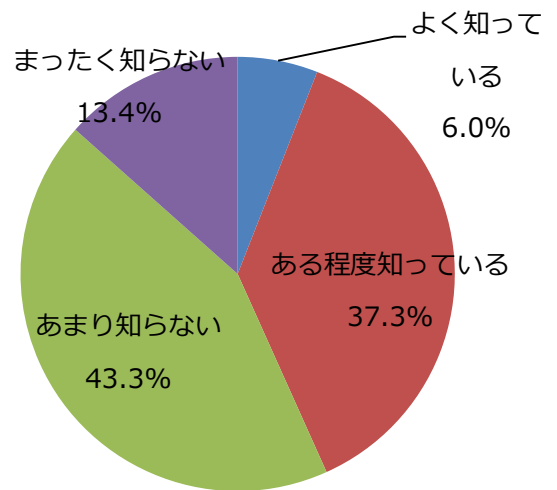


問2 「弘前市協働によるまちづくり基本条例」が制定されていることを知っていますか。

No.	回答	人数	構成比(%)
1	知っている	61	7.9
2	知らない	642	83.1
3	未回答	70	9.1
合計		773	100

問3 問2で「1. 知っている」と答えた方にお伺いします。条例の内容を知っていますか。

No.	回答	人数	構成比(%)
1	よく知っている	4	6.0
2	ある程度知っている	25	37.3
3	あまり知らない	29	43.3
4	まったく知らない	9	13.4
合計		67	100

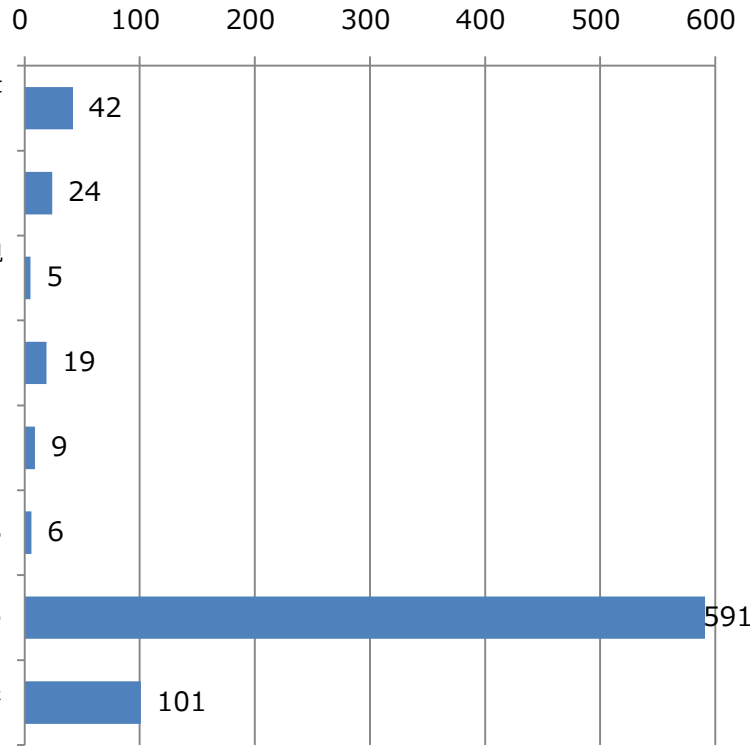


【調査結果(問1~3から)】

- ◆協働という言葉の意味を「知っている」と答えたのは全体の約1割で、条例の制定については、「知っている」と回答した人は全体の1割にも満たない結果となりました。市民に対して、まだまだ浸透されていないことが伺えます。
- ◆市が進めている協働によるまちづくりの基本理念などを市民に対して周知する手法の検討が必要です。

市政運営や市の事業への参加について

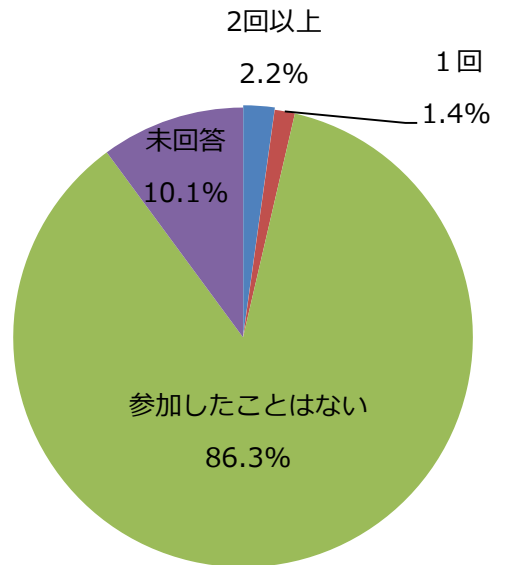
問4 市政運営や市の事業に参加した（現在、参加しているのも含む）ことはありますか。（〇はいくつでも）



その他（抜粋）

◆1%システム発表会、医療関係講演会、市議会の傍聴など

問5 これまで「協働によるまちづくり」に関連する、研修や講演会などを受講する機会がありましたか。（例：まちながサミットなど）



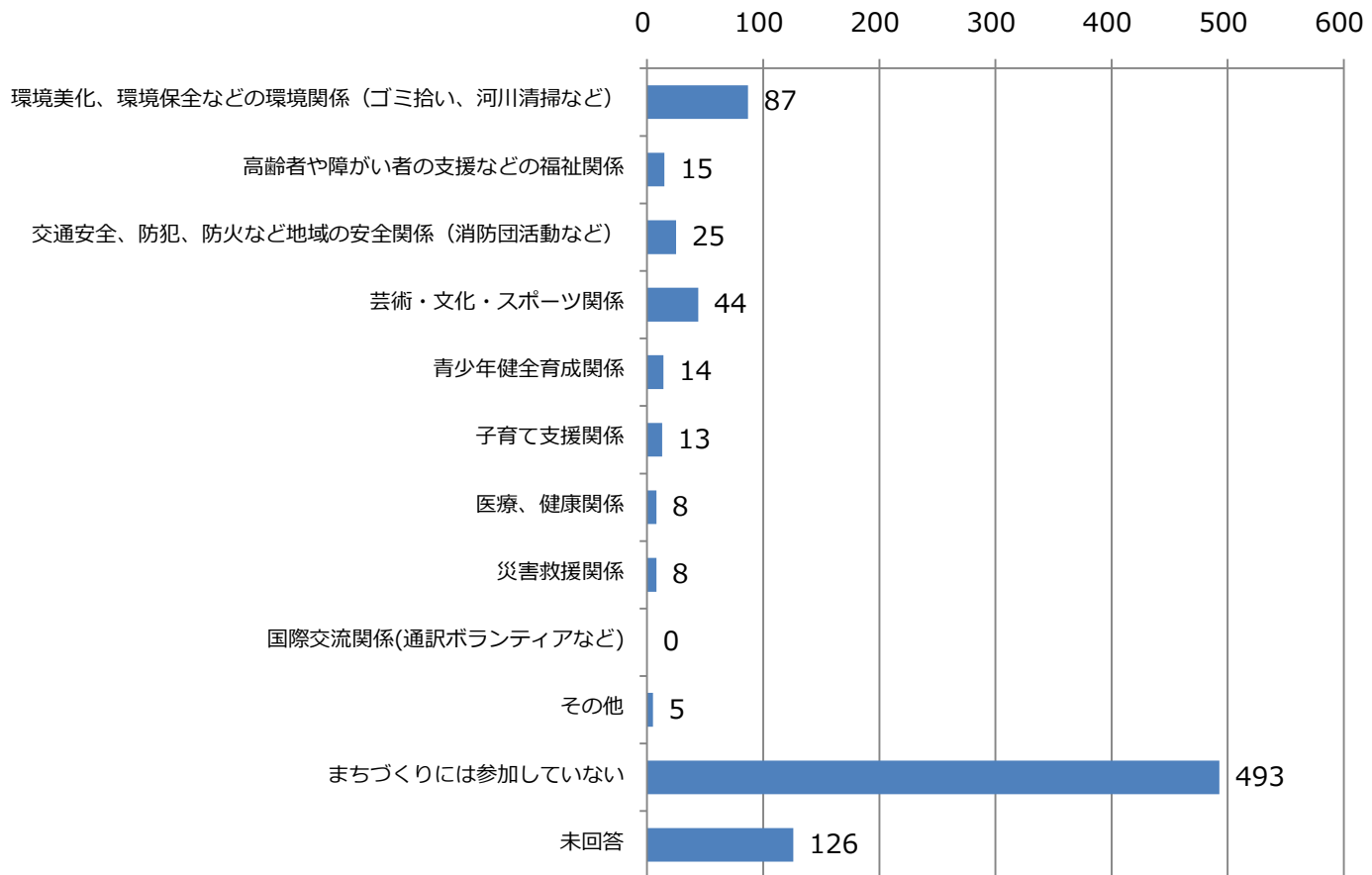
No.	回答	人数	構成比 (%)
1	2回以上参加したことがある	17	2.2
2	1回参加したことがある	11	1.4
3	参加したことはない	666	86.3
4	未回答	78	10.1
合計		772	100

【調査結果(問4、5から)】

◆市民のほとんどが、市政運営や、協働によるまちづくり関連の研修などに参加したことがないという結果となりました。これまで以上に、協働によるまちづくりへの関心を高め、研修や講演会などへの積極的な参加を促す必要があります。

まちづくり（市民活動）への参加について

問6 現在、参加しているまちづくりはどのような活動ですか。（○はいくつでも）



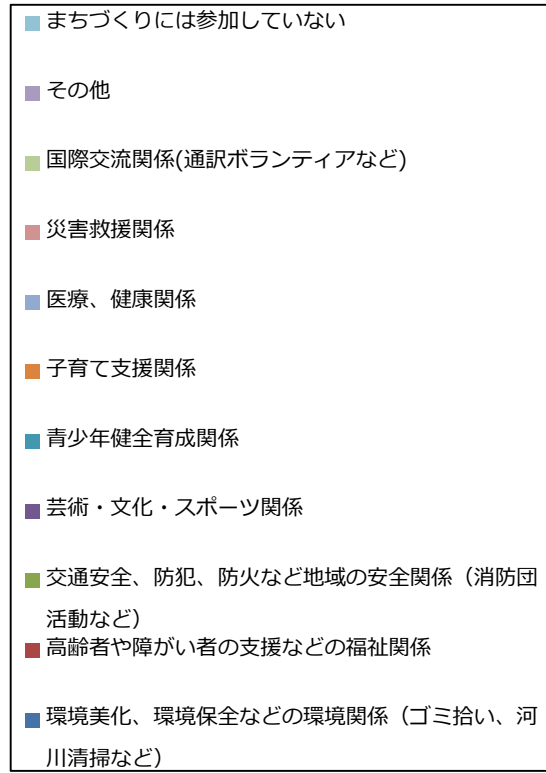
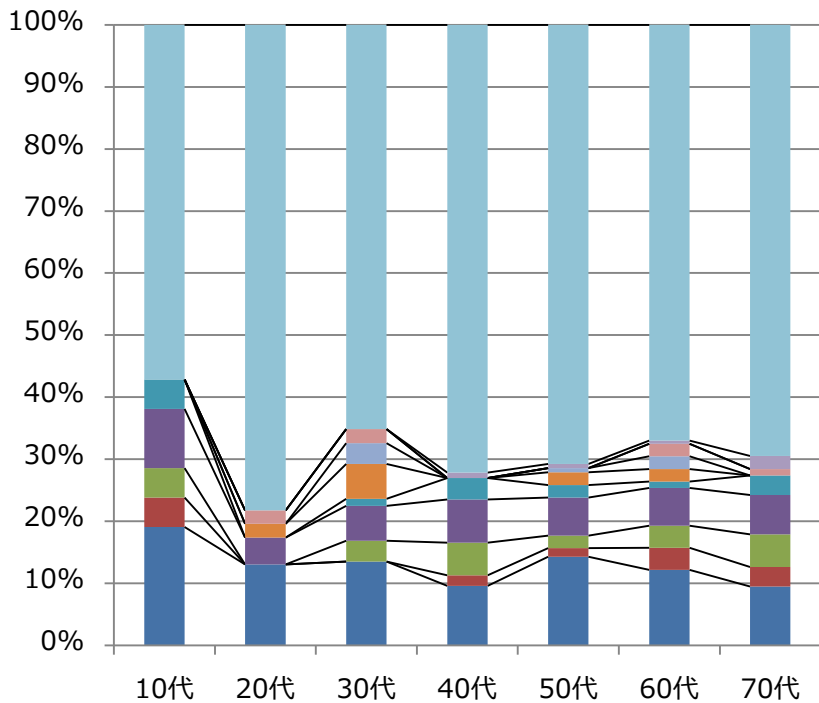
その他（抜粋）

- ◆地域活性事業「和徳歴史探偵団」
- ◆町会活動
- ◆食生活改善委員としてだし活や小学校のPTA活動にボランティアとして参加
- ◆町会関係
- ◆町会活動支援

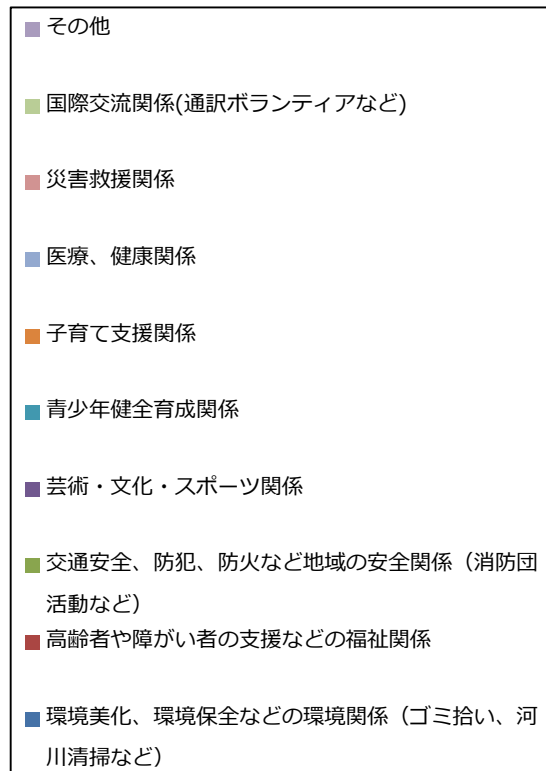
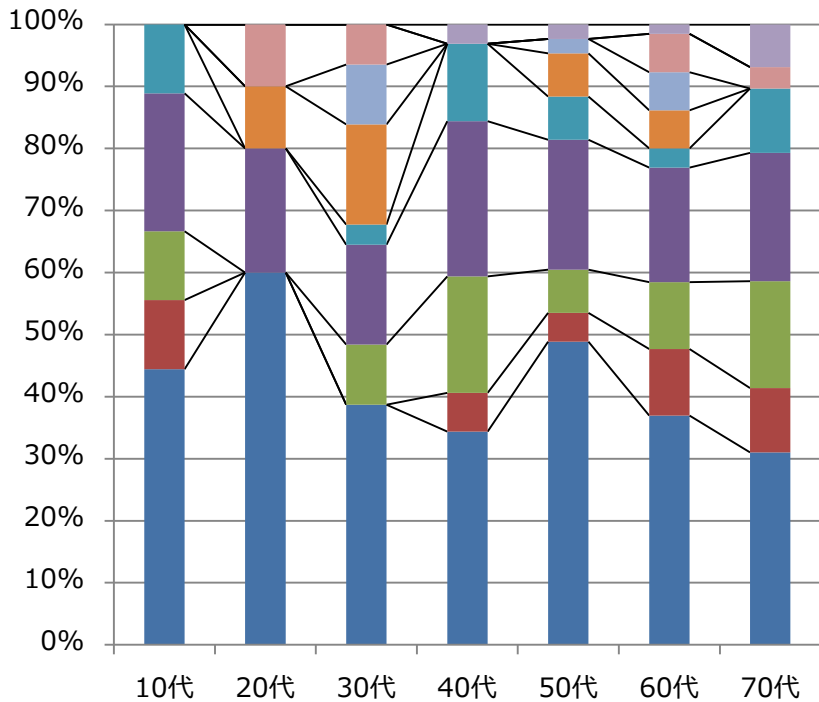
【調査結果(問6から)】

- ◆市民の半分以上（全体の約64%、回答者のうちの約76%）が、「まちづくりに参加していない」と回答しました。
- ◆参加しているまちづくりのうち、最も多かったのは「環境関係」で、次いで、「芸術・文化・スポーツ関係」となっています。河川清掃や、地域スポーツなど、身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。
- ◆全体の20%がまちづくりに参加しており、問1の協働の意味を知っている人11.4%と差があることから協働しているということに気付かず、まちづくりをしている人もいることがわかりました。

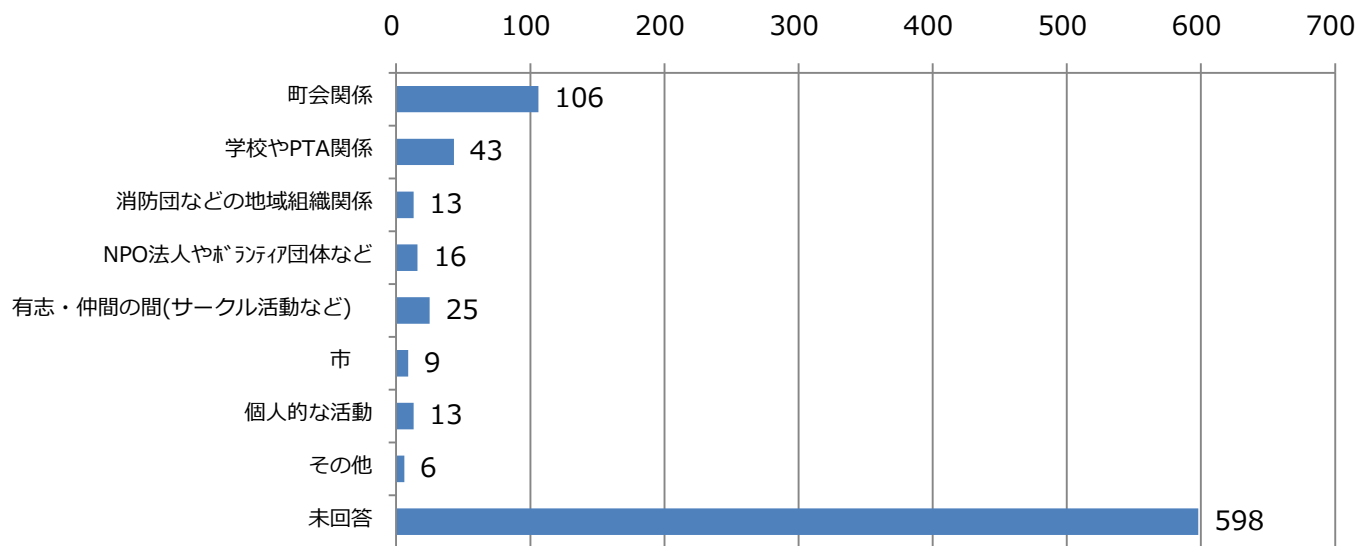
【参考】問6-2 まちづくりへの参加について（年代別割合）



※「参加していない」を除く



問7 参加しているまちづくりの実施主体はどのようなものですか。（○はいくつでも）
 ※問6でまちづくり参加していると回答した人



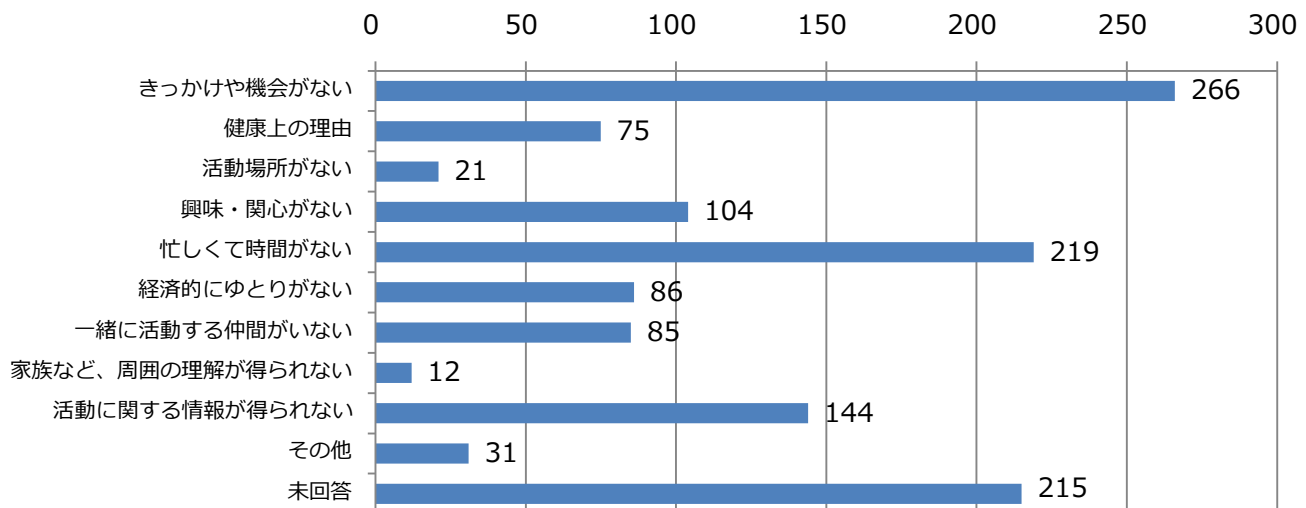
その他（抜粋）

◆子ども食堂、社会福祉協議会、トラック協会の活動など

【調査結果(問7から)】

◆回答が最も多かったのは「町会関係」で、次いで「学校やPTA関係」となりました。生活に密着した身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。

問8 あなたが、現在、まちづくりに参加していない理由はなんですか。（○はいくつでも）



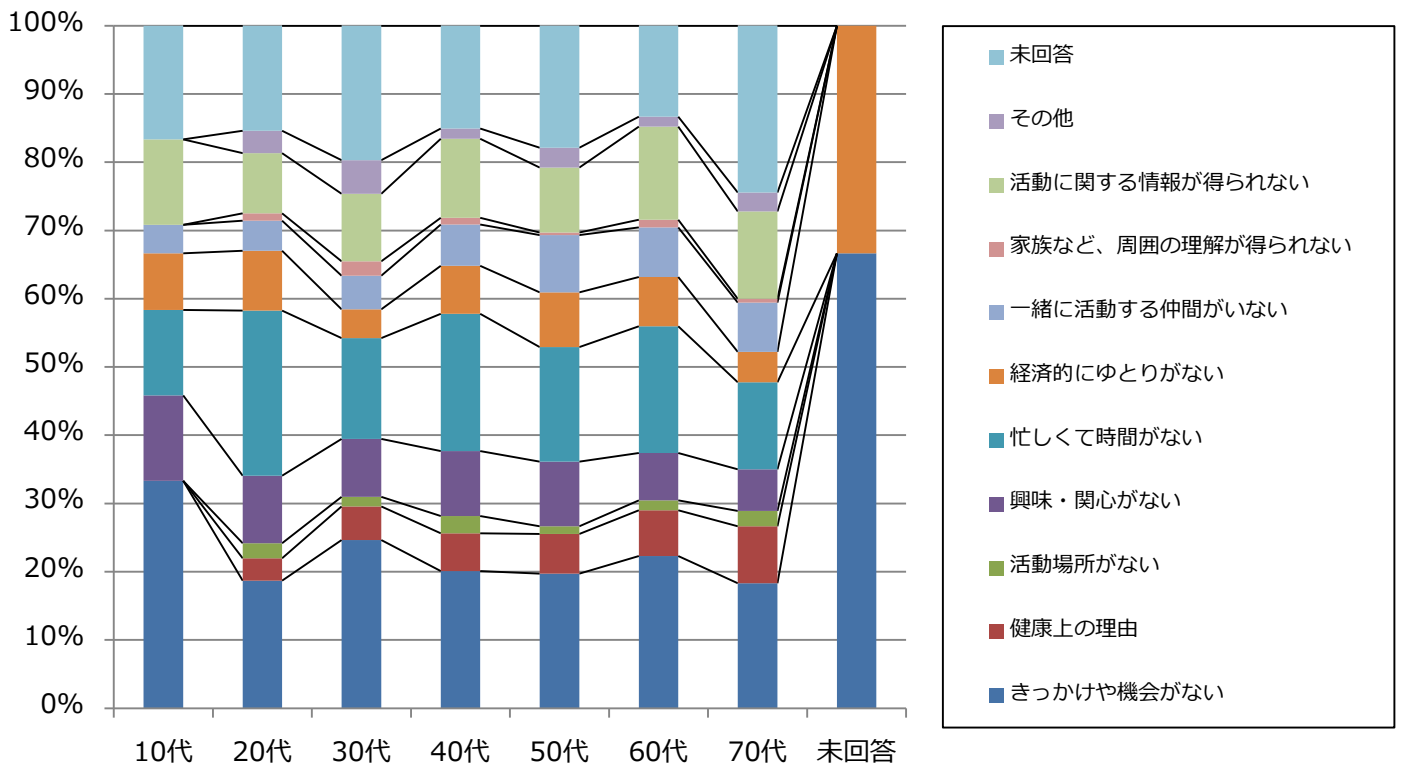
その他（抜粋）

◆障がいのため、自信がない、移動手段、介護、子育て、高齢のため、自分に合う活動があるかわからない、引っ越ししてきたばかりだから など

【調査結果(問8から)】

◆回答が最も多かったのは「きっかけや機会がない」で、次いで「忙しくて時間がない」、「活動に関する情報が得られない」となりました。市内でどのような活動があるのかなどの情報発信を強化し、きっかけや機会を創出することで更なるまちづくりへの参加が図られることが予想されます。

【参考】 問8-2 まちづくりに参加していない理由（年代別割合）

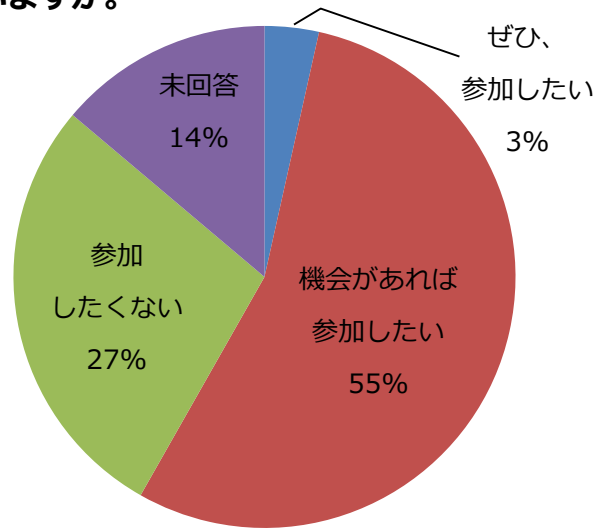


【調査結果】

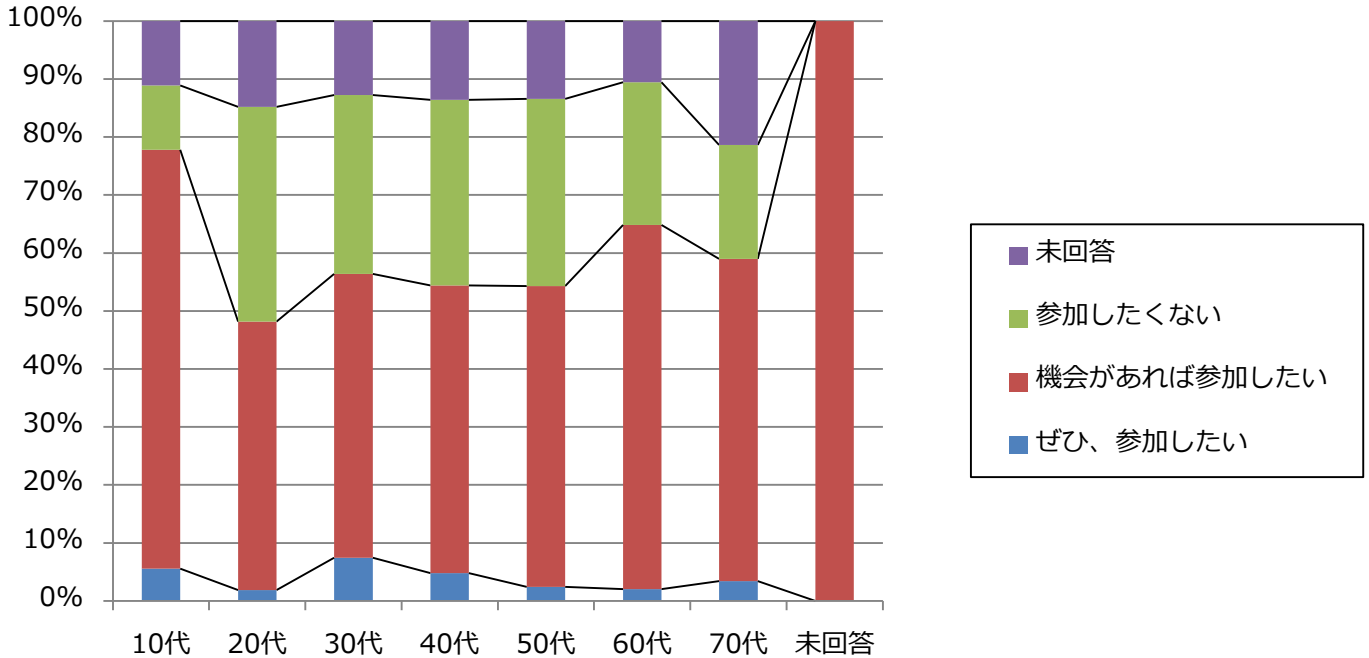
- ◆まちづくりに参加していない理由を年代別の割合で見ると各年代ごとに大きな違いはなく、きっかけや機会の創出や、活動に関する情報発信については、全世代向けに幅広く取り組む必要があります。
- ◆情報収集の仕方は世代ごとに異なるため、様々な媒体を活用する必要があります。

問9 あなたは、今後まちづくりに参加したいと思いますか。
 (※現在、参加している人も回答)

No.	回答	人数	構成比(%)
1	ぜひ、参加したい	27	3
2	機会があれば参加したい	423	55
3	参加したくない	216	28
4	未回答	107	14
合計		773	100



【参考】 問9-2 まちづくりへの参加意欲割合（年代別）

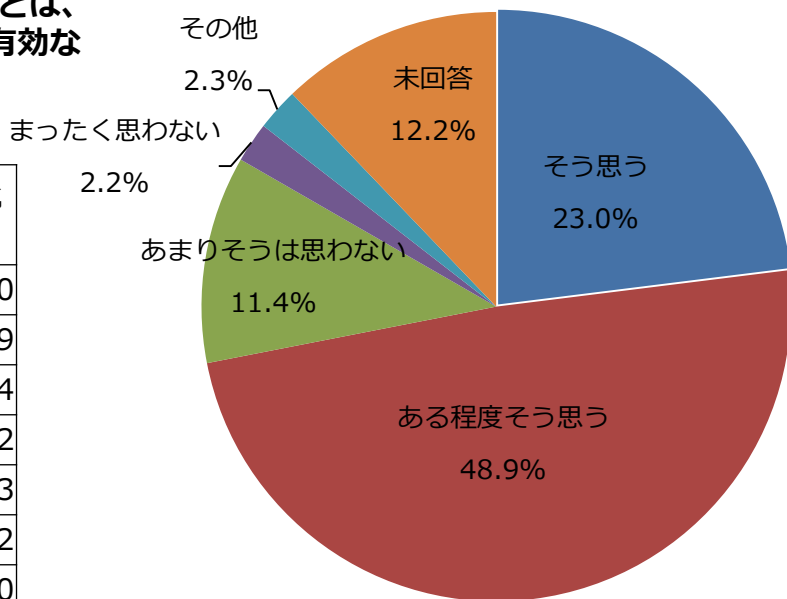


【調査結果】

◆全体の55%(回答者のうちの約68%)がまちづくりへの参加に意欲を示しています。ただし、「ぜひ、参加したい」と回答した人はごくわずかで、積極的にまちづくりに関わりたいという市民は非常に少ないことがわかりました。まちづくりへの参加意欲については、10代（回答者のほとんどが学生）が最も「参加したい」の割合が大きいことから、学生のやる気をどのようにまちづくりに生かすかが重要になると考えられます。

まちづくりに対する考えについて

問10 市民等と行政が協働を進めていくことは、より良いまちづくりを進めるうえで有効な手段になるとお考えですか。



No.	回答	人数	構成比 (%)
1	そう思う	178	23.0
2	ある程度そう思う	378	48.9
3	あまりそうは思わない	88	11.4
4	まったく思わない	17	2.2
5	その他	18	2.3
6	未回答	94	12.2
合計		773	100

【調査結果】

- ◆全体の71.9%(回答者のうちの約8割)が「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答しており、多くの市民が協働することがより良いまちづくりに繋がるという認識があることがわかりました。
- ◆協働することの必要性や大切さはわかっているにもかかわらず行動に起こせない人が多数いることが想定されるため、一步を踏み出すきっかけづくりが必要です。

問11 問10で、そう思った理由はなんですか。

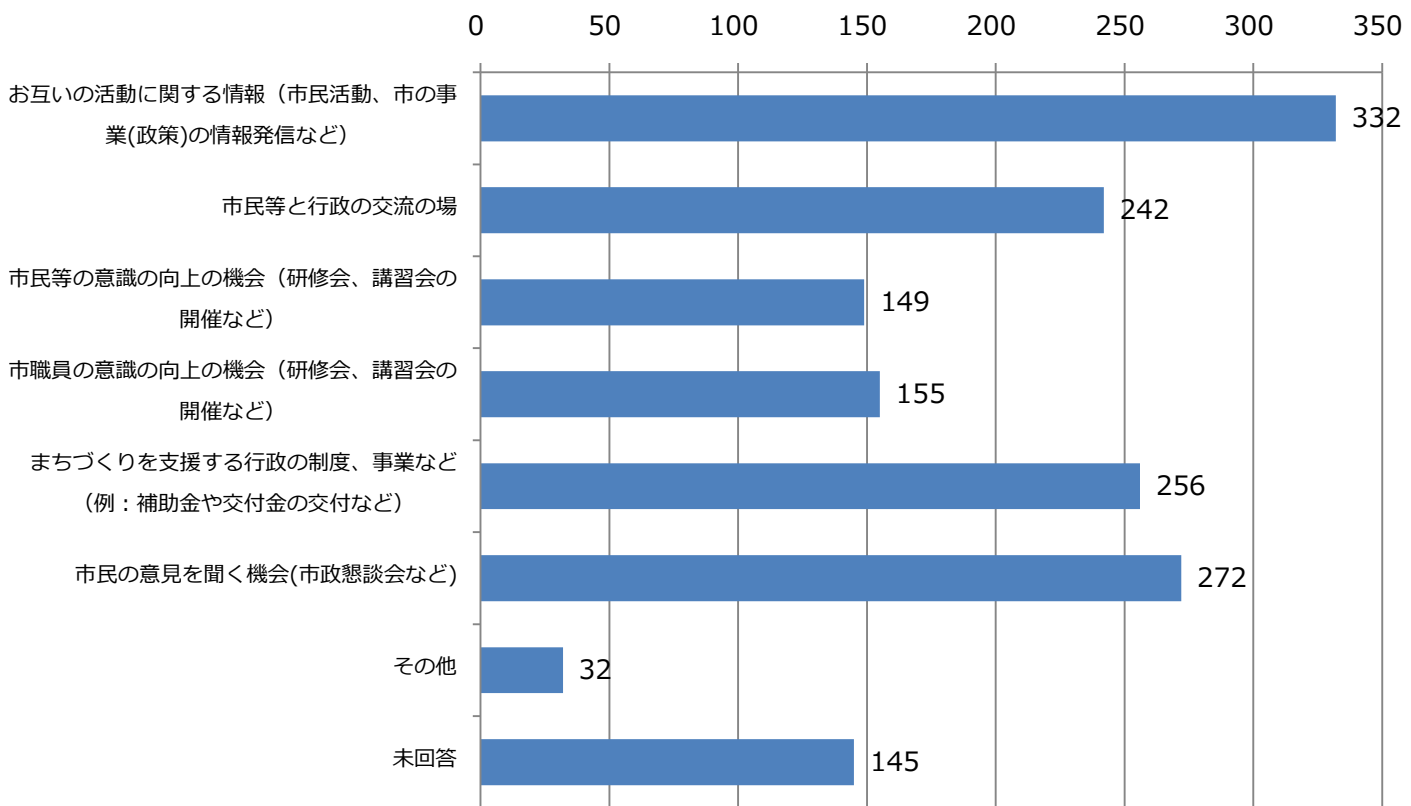
「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した人の意見で多かったものなど（抜粋）

- ◆それぞれがお互いの目線でものごとを考えることができそう。
- ◆市民、行政それぞれに特異分野（強み）があるため、行政と市民の力を合わせると大きな力になる。
- ◆個々の団体、個人では、力や金又は出来る事に限りがある。
- ◆市民と行政だけでなく、ある程度外部の専門的な人が必要。
- ◆行政が行っていることの主体は、本来市民だと思うから。
- ◆市民もまちづくりに参加することで自分の町に愛着が湧く。
- ◆市民の目線での細かい気づきやアイデアが出ると思うから。
- ◆税金には限りがあり、将来、今の水準の行政サービスを提供することは困難であるため、身近な所でやることはやる者がやっていくべきだと思う。
- ◆市民の意識の向上が、将来に大きく繋がることになると思ったため。
- ◆年収や世帯も様々なので。
- ◆行政まかせではなく、市民が意見・要望を述べると共にそれを実現するために意識を高め、共に実行していくことが大切だと思います。
- ◆行政側の一方的な政策の実施では、市民の理解が得られないと思うから。
- ◆行政も多忙で職員数が少ない中、減ることのない業務で、良いアイデアやマンパワーを捻出は大変。

「あまりそう思わない」、「まったくそうは思わない」と回答した人の意見が多かったものなど（抜粋）

- ◆参加している市民は特定の人であり、かといって新しく参加する人もいないから。
- ◆市民の負担が多いため、協力する人が少ないのでは。
- ◆話し合いだけで、何も結果が出ていないように感じる
- ◆何年も前から変化が見られない
- ◆一人一人の意見など、尊重されないと思う。
- ◆市民側と行政側は意識が違う。
- ◆行政が市民の声を取り入れて、積極的に活動に取り組んでくれるとは思えない。
- ◆議会が積極的に動いているとは思えないから。
- ◆行政がどういった事をしているのかわからない。
- ◆興味がない。

問12 今後、市民等と行政が協働してまちづくりを進めていくためには何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

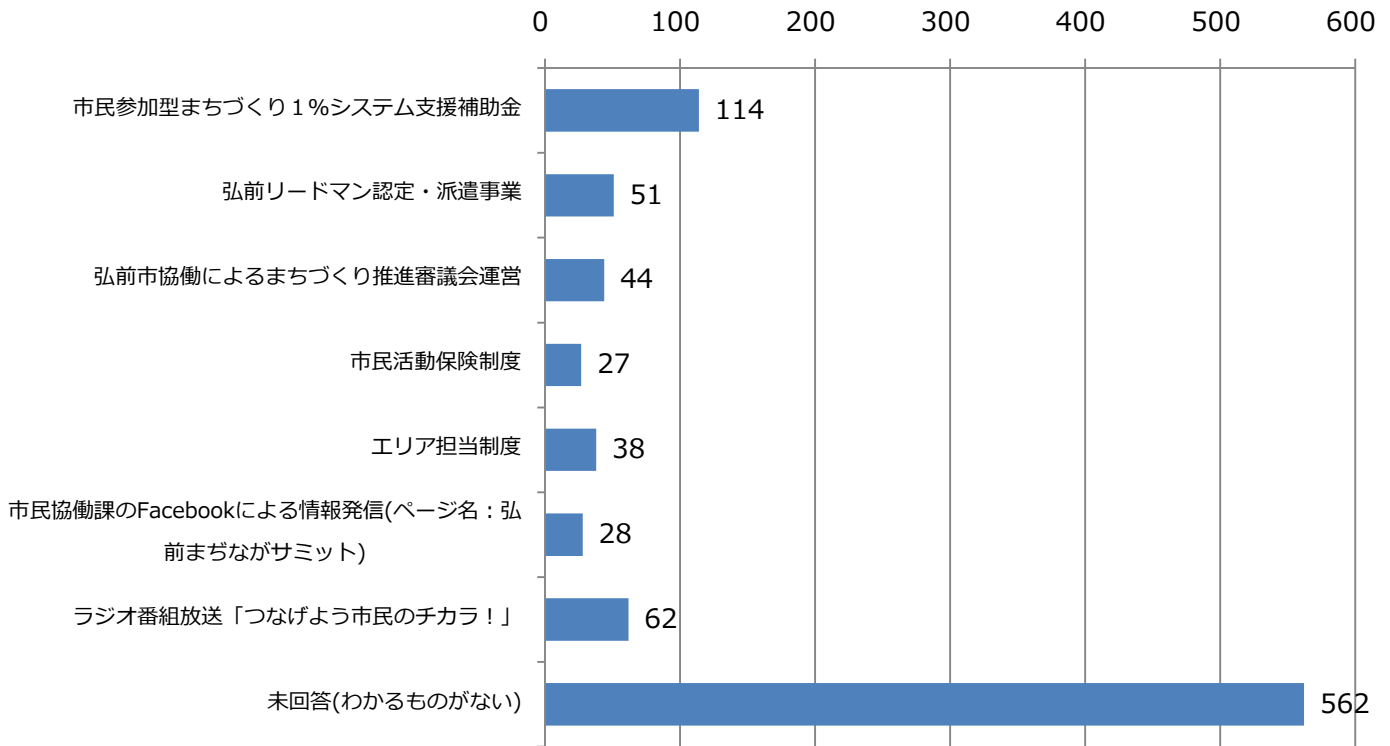


【調査結果】

- ◆「お互いの活動に関する情報」と回答した人がもっとも多く、次いで、「市民の意見を聞く機会」となりました。協働を進めるためには、まずはお互いのことをより深く知り、市政に意見や提案ができる多様な機会を確保することが重要だと考えている市民が多いようです。
- ◆3番目に多かったのが、まちづくりを支援する制度、事業などであることから、1%システムや町会活性化支援補助金など現行の制度の周知徹底を図るほか、更に支援制度の充実を図り、活動のきっかけづくりやステップアップをしてもらうことが必要です。
- ◆市民の声は協働によるまちづくりに欠かせないという意見も多いことから、アイデアポストやパブリックコメントなど市民の声を直接届ける制度については、積極的に周知を図る必要があります。
- ◆「交流の場」が必要という回答も多かったことから、市民を巻き込んだワークショップの開催など、交流しながら意見を出し合えるような場をつくり、市民と行政の情報共有、連携強化を図り、つながりを深めていくことが必要です。

弘前市の協働に関する取り組みについて

問13 弘前市が実施している下記の事業について、知っているものすべてに○を付けてください。（○はいくつでも）



【調査結果】

- ◆最も認知度が高かった「1%システム」でも全体の約15%であり、全体的にまちづくり関連事業の認知度が低く、引き続き情報発信に努めていく必要があることがわかりました。
- ◆「市民活動保険制度」、「Facebook」がほぼ同数で最も認知度が低いという結果となったため、今後は周知活動の更なる強化が必要です。特に、Facebookについては、まちづくり関連事業の紹介やイベント等の情報発信ツールとして活用しているため、積極的に登録、活用を促す必要があります。

自由意見

情報発信の強化

- ◆市民への周知活動が足りないのではと思います。一部の人だけで盛り上がってやっている感が否めない気がします。もっとみんなが興味を持ってやる様な活動にしてほしいです。
- ◆イベントの告知をもっとするべき。(ローカル番組やCM、ポスター等)
- ◆市民主体のまちづくりは素晴らしいことだと思いますが、それが市民に根付いているかは不明のように思います。市民全体がより良いまちづくりを意識できるようなアピールが必要なのかもかもしれません。
- ◆日頃、時間がなく、情報収集は仕事中に聞いているラジオ(アップルウェーブ)である。日中のラジオで活動内容を紹介して欲しい。
- ◆情報が入ってこない(個人的に知る方法がない)。広報ひろさきを見ても内容がわかりづらい。もっと見やすくして欲しい。
- ◆広報ひろさきに情報を載せて欲しい(自分が見逃しているのかも)
- ◆市の協働に関する事について、ほとんど知らなかったのもっと周知できるようなツールでお知らせしていけたら良いのではと思いました。
- ◆SNSでアピールしたらいいと思う。
- ◆数年前まで県外にいたので市の取り組みのほとんどを知りませんでした。Facebook等で活動報告などチェックしていきたいです。
- ◆市の事業を何一つ知らなかったのも、市民として恥ずかしいと思った。これからはいろんな方法で取り組みを発信して欲しい。
- ◆情報発信の方法を年代別に分けて行うべき。
- ◆長らく東京で暮らしていた私はもとより、ずっと弘前で暮らしている家族も知らない取り組みなので、TVなどでの広報活動もして、活動内容を周知して欲しいです。
- ◆もっとオープンに情報を広めて欲しい。知る人は知るではなく、誰もがわかるように…。たとえば決まった日時に放送を流すとか、バスなどでの呼びかけチラシ、など”目につく””耳に入る”よう何かを考えて欲しい。
- ◆ヒロ口3Fは子育て世代は本当にありがたい場所です。若い世代が子どもと一緒に協働に参加してみようと思えるよう、情報発信の場にすれば、効果が(多少は)あると思います。
- ◆定期的な情報発信や活動を大々的に告知し、なぜ、このような活動をしているのかの説明と理解、そして協力してもらえるような事が必要だと思います。(わかりやすさが必要)
- ◆「協働によるまちづくり」と聞くと難しく感じてしまう。もう少しわかりやすく事業について説明があると、若い人もわかりやすいかも。
- ◆町内会に参加していない人間にも情報が得られる機会を与えるべき。
- ◆もっとわかりやすく楽しそうなチラシ(小雑誌風にでも)を作るともっと市民の方が興味を持つのではと思いました。
- ◆市役所など公共施設以外の場所でも各制度に触れる機会があればうれしいです。

幅広い意見の収集

- ◆古い考えや保守的な考えは控え、他県のやり方や、若い人の意見を取り入れることが大事だと思う。
- ◆学都を誇る弘前の特色を活かしたまちづくり。新たに創造することも大事であるが、全国の似たような自治体の成功事例を参考にすることも必要だと思う。
- ◆市民の意見を取り入れることは大事であるが、様々な取り組みに関わる人があまり変わっていないように感じる。いろいろな人（市民）の声（意見）を参考にできるような仕組みを考えていただきたい。（とても難しいとは思いますが…）
- ◆小学校～高校の有識者、介護などの有識者が求める「まち」に耳を傾けることで、子どもや高齢者が住み良いまちが見えてくると思います。
- ◆市民の意見を取り入れ、若い人が住みたいと思うような市になってもらいたいです。

相互の連携が必要

- ◆市民、行政両者の視線が同じ方向を向いていることが好ましいと思う。
- ◆行政がやらなければならないことと、民間や地域住民等でやれる事を今まで以上に分けてやらなければ、弘前市がより厳しくなると思う。国からの補助や交付金を当てにせず、自前でやれる事を増やすようにし、より必要な部分に予算を配分すべきだと思う。（特に子供や若者に投資していくべきだと思う）

市民等と行政の距離感を縮める

- ◆市役所をもっと身近に感じられるように、接客を丁寧にして欲しい。
- ◆市職員の積極的な働きかけによって、単に箱モノを造るのではなく、「ここに住みたい」と思わせるまちづくりを住民と一緒にやって作り上げることができるのでは？
- ◆市政側へは、より市民の声や意見を届けやすく(SNS等で)して欲しい。（アンケートでもいいですが）市民側へは、具体的にどうしたいのか。このアンケートのような調査をもっと行い、意見を市政に届ける習慣(までとはいかなくとも)があれば…と思います。
- ◆市内と周囲の町会・集落と区別することなく、弘前全体が気軽に意見交換が出来る会や場を増やして欲しいです。
- ◆研修会や講習会となると面倒くさくて参加しないという人が多いのではないかと思うので、誰でも気軽に参加できるような会を開くことで、多くの市民に興味を持ってもらえるのではないかと思います。
- ◆行政が頑張ってくれると市民も付いていくと思います。頑張ってください。

自分にできることから始めたい

- ◆知ることから始めたいと思います。
- ◆何か個人的に参加できることがあれば参加してみたいです。
- ◆協働という言葉は初めて聞きました。自分で興味を持って動かないと情報が伝わらないと思いました。
- ◆今までまちづくりに参加して来なかったですが、機会があれば参加したいと思います。
- ◆協働という名称を初めて知ったので、今後は刮目していこうと思っています。
- ◆いろいろ勉強不足でした。無理せず出来る範囲で協力できればと思います。
- ◆今、最中子育て中なのでもう少し自分にゆとりができたなら色々な活動に参加してみたいです。

アンケートの実施で勉強になった

- ◆このアンケートで知らない事が多いなと思いました。
- ◆アンケート記入する機会を得る事により、協働に関する取り組みを知り、ネットで調べてみた。興味や関心がないのではなく、活動に関する情報を得る第一歩となった。
- ◆アンケートが届いた事で、まちづくりの事を少し知ることができました。ありがとうございます。
- ◆アンケートが来て、少し弘前市の活性化について考えることになりました。
- ◆“協働によるまちづくり”をPRする場があるのかなのか知らずに過ごし、このアンケートで知りました。

参加したいけどできない

- ◆いろいろな活動に参加してみたい気持ちはあるものの、仕事や家の事に追われて、なかなか出来ないのが現状です。
- ◆外出をあまりしないので協力できない。
- ◆興味が少しあり、参加してみたいという気持ちはあるが、毎日のフルタイムの仕事と育児で心に余裕がない。親子参加型のイベント（まちづくり）が数多くあればいい。

町会関係

- ◆より良いまちづくり活動を推進するには各町内自治会の活用が必要と思います。
- ◆町内会など小さい交流も大事だと思う。
- ◆私は町内の行事にしか参加しておりませんが、それすら皆さん無関心です。

その他

- ◆今回初めて「協働によるまちづくり」という言葉を知った。
- ◆まちづくりは、体が元気で時間があるお年寄りしか参加できないと思います。
- ◆20代からこのようなアンケート調査をして欲しい。10代は、とても質問に対し意味がよくわかりません。
- ◆参画センターに代わる施設が必要。ヒロロの交流室は休日などフロアの声が交流室に流れるため、静かに活動したり、話し合いの場には不向きと思う。低料金で公共交通の利用できる（少人数でも可能な）場所を渴望している。
- ◆小・中学生が学校ごとで、参加することが増えれば、その親にも伝わっていき、情報が伝わって行くと思う。
- ◆小中高生や大学生などが関わることのできる取り組みがあればよい。長期的な目でとらえて欲しい。
- ◆意識改革には時間が掛かる。成果など言わないで浸透に努力。
「協働」という言葉は市民に殆ど浸透していないし、形だけの会合は意味を持たない。やったという結果を残すだけではなく、まちづくりに皆が向かっていけばいいと思います。
- ◆無駄にお金をかけたりする活動を考え直して欲しい。
- ◆市民が無理なく参加できるまちづくり事業を考えて欲しい。
- ◆人付き合いが苦手な所に出ることを嫌う人もいて、その様な人の中でもまちづくりに参加したいと思う人はいると考えられるので、堅いイメージを無くしたラフな感じのまちづくりになると良いが…。
- ◆弘前市は悪くない方だと思う。今までのレベルを維持しながら続けていって欲しいです。
- ◆一部の人に集中しすぎている。同じ人が多くのプロジェクトに入り、他の人の加入を阻害している。市職員との癒着がひどいのでは。